

付 録

紅梅文庫旧蔵本と熊本大学教育学部蔵本の各巻枚数比較

巻序	巻名	紅 梅 本					熊 大 本				
		コマ数	前遊紙	墨付本文	後遊紙	紅梅本備考	コマ数	前遊紙	墨付本文	後遊紙	熊大本備考
1	桐壺	41	1	33	2		38	1	33	2	
2	帚木	65	1	60	1		64	1	60	1	
3	空蟬	21	1	15	2		19	1	15	0	
4	夕顔	67	1	62	1		66	1	62	1	
5	若紫	70	1	64	1		68	1	64	1	
6	末摘花	47	1	43	0		45	1	42	0	撮落し1箇所 (17㉿~18㉿)
7	紅葉賀	43	1	38	1		42	1	38	1	
8	花宴	19	1	14	1		18	1	14	1	
9	葵	69	1	64	1		68	1	64	1	
10	賢木	76	1	69	2		74	1	69	2	
11	花散里	12	1	6	1		11	1	6	1	
12	須磨	65	1	58	1		62	1	57	1	撮落し1箇所 (8㉿~9㉿)
13	明石	61	1	56	1		59	0	56	1	
14	濤標	47	1	43	0		46	1	43	0	
15	蓬生	0				欠本	34	1	31	0	
16	関屋	13	1	7	2		13	1	7	2	
17	絵合	29	1	25	0		28	1	25	0	
18	松風	35	1	29	2		35	1	29	2	
19	薄雲	47	1	42	1		47	1	42	1	
20	朝顔	33	1	28	1		32	1	28	1	
21	少女	70	1	64	1	64㉿に最終1行5文字	69	1	63	2	63㉿で収める
22	玉鬘	65	1	58	3		62	1	58	1	
23	初音	25	1	20	1		24	1	20	1	
24	胡蝶	33	1	27	2		30	1	27	2	
25	蛭	33	1	27	2		32	1	27	2	
26	常夏	36	1	30	1		34	1	30	0	
27	篝火	11	1	5	2		10	1	5	2	
28	野分	29	1	24	1		28	1	24	1	
29	行幸	44	1	38	1	独自の付箋1枚貼付	43	1	38	1	
30	藤袴	23	1	19	0		24	1	19	0	
31	真木柱	53	1	48	1	独自の書き入れ多し	53	1	48	1	
32	梅枝	30	1	24	1		26	1	24	1	
33	藤裏葉	35	1	31	0		34	1	30	0	撮落し1箇所 (7㉿~8㉿)
34	若菜上	0				欠本	134	1	129	2	
35	若菜下	130	1	123	2	独自の付箋1枚貼付 (23㉿)	128	1	123	2	
36	柏木	59	1	53	0		59	1	53	2	
37	横笛	33	1	25	2		30	1	25	2	
38	鈴虫	25	1	20	1		25	1	20	1	
39	夕霧	101	1	94	1		99	1	94	1	
40	御法	33	1	26	1	独自の付箋1枚貼付 (23㉿)	31	1	26	1	
41	幻	35	1	30	1		34	0	30	1	前遊紙ナシ。複数箇所錯簡有り
42	匂兵部卿宮	25	1	20	1		25	1	20	1	
43	紅梅	23	1	18	1		23	1	18	1	
44	竹河	60	1	54	1		59	1	54	1	
45	橋姫	57	1	50	1		56	1	50	1	
46	椎本	53	1	48	1		55	1	48	1	
47	総角	129	1	123	2	江戸期の補写	115	1	110	1	
48	早蕨	31	1	24	1		29	1	24	1	
49	宿木	125	1	118	1		123	1	118	1	
50	東屋	89	1	82	1	付箋1枚 (34㉿)	86	1	82	1	
51	浮舟	95	1	90	1		96	1	90	1	
52	蜻蛉	82	1	76	1		82	1	76	1	
53	手習	93	1	88	1		93	1	88	1	
54	夢浮橋	31	1	24	3	奥書	31	1	24	3	奥書・識語
	小計	2656	52	2357	61		2751	52	2500	60	

- ・コマ数は映の写真、付箋の有無、剥がれた見返しの撮影等により、両本の数値が一致しない例がある。
- ・墨付本文数の不一致には必ず何らかの理由がある。備考欄を参照のこと。
- ・熊大本は損傷が激しいため、現在閲覧停止。国文学研究資料館所蔵のマイクロフィルム（モノクロ）による調査。

紅梅文庫旧蔵本と熊本大学教育学部蔵本の書き入れ一覧

- 1、本表は紅梅本の書き入れ箇所について、熊本本と照合し、その結果をまとめたものである。なお熊本本からの逆調査は未処理である。
- 2、書き入れ本文にはすべて（ ）記号を冠し、かつ補入記号は（。）で、見せ消ちは抹消線で表示しておいた。
- 3、異文注記や本文訂正の記号を伴わない書き入れは、複数の解釈が可能であるため「傍書」として別項にしておいた。
- 4、紅梅本と熊本本に共通する書き入れは、両本の共通祖本に由来している可能性がある。そうした事例には■で着色しておいた。
- 5、同じく、「加筆」（異文注記・傍書・訂正等）後の本文で読むと両本の異同が解消された事例にも、□で着色しておいた。

巻序	巻名	紅梅本		熊本本	書き入れの種類				書き入れの分析				備考
		丁・行	書き入れ	書き入れ	異文注記	傍書	本文訂正	注記等	両本に共通する	紅本のみの加筆	熊本本のみの加筆	加筆結果、異同が解消	
1	桐壺	24㉔	いにしへの(無)人の	いにしへの(無)人の	1				1				
		22㉔⑧	天(ノ)下(夕)	天(ノ)下(夕)				1	1				
		28㉔⑨	殿(ルビ「テ」)の	殿(ルビ「テ」)の				1	1				
2	帯木	14㉔⑨	はひかくれぬるおり(かし)	はひかくれぬるおり	1					1			
		16㉔⑥	たへ(えい)ぬへき	たえぬへき	1					1		1	
		21㉔⑤	いみしまちきり	いみし(き)ちきり		1					1	1	
		32㉔④	いまに(もい)えこそ	いまに(もい)えこそ	1				1				
		36㉔⑤	月ころ(ふ)ひやう	月ころふひやう			1			1		1	
		44㉔②	思ふ給ひ(へい)かけなから	思ふ給へかけなから	1					1		1	
		46㉔②	あなくら(るし)とて	あなくら(るし)とて	1				1				
		54㉔①	この二とせ(ねん)はかりそ	この二ねんはかりそ		1				1		1	
3	空蝉	9㉔③	あさく(さい)なめりかし	あさくなめりかし	1					1			
		9㉔④	おほ(え)す	おほ(え)す			1		1				
		14㉔②	いと(なん)わりなき	いとなんわりなき			1			1		1	紅本の書き入れかなり薄い
4	夕顔	9㉔⑨	御け(よ)はひの程	御けはひの程		1				1			
		12㉔⑨	かは(な)らす	かはらす		1				1			
		14㉔⑤	かなし(と)思	かなしと思		1				1		1	紅本、「さ」に見消ちを付け忘れたか
		18㉔⑧	御ありか	御ありか			1			1		1	紅本の見せ消ち、朱筆
		41㉔②	いといたく(て)	いといたくて		1				1		1	
		41㉔②	いたく(て)くるしく	いたくてくるしく		1				1		1	
		47㉔⑥	つゆけ(き)に	つゆけさに		1				1			
		48㉔⑦	しのひありきの(うち)し(キリ)ける	忍ひありきのしきる		1	1				2		
48㉔⑧	昨日(ふ)の	昨日の			1			1					
5	若紫	1㉔⑧	ありさま(き)も	ありさまも	1					1			
		2㉔⑤	こし葉(かき)なれと	こし葉なれと			1			1			
		5㉔②	ふかき(山)さとは	ふかきさとは		1				1			
		7㉔④	こし葉かきのほ(もい)とに	こし葉かきのほとに	1					1			
		12㉔⑤	こもり侍(ル)とは	こもり侍りとは		1				1			
		16㉔⑥	かのおは(北ノ方)に	かのおはに			1			1			
		19㉔⑩	あまきみ(いて)	あまきみ			1			1			
		20㉔②	(あさくは)いかと	いかと			1			1			紅本「と」の周囲にも薄い朱墨汚れか
		22㉔③	心もとまり	心もとまり			1			1			
		26㉔⑥	(そのうち)ひなあそび	ひなあそび			1			1			
		28㉔②	おもはずに(おほえ給ふ)	おもはずに		1				1			
		29㉔⑤	きこゆるほ(を)と	きこゆるほと	1					1			
		37㉔①	(おきふし)なけきたまふ	なけき給ふ			1			1			
		37㉔③	おもひたち給へるを(みちに)	思ひたち給へるを		1				1			
		37㉔⑨	(少納言)とふらひて	とふらひて			1			1			
		41㉔④	またみ(ハ)をとりや	みをとりに		1				1			
		51㉔⑥	などまでも(ハ)	などまでも		1				1			
53㉔③	おほしやられると(ハ)	おほしやられると		1				1					
54㉔③	すきかましきやうなるへき事(りとも)	すきかましきやうなるへき事		1				1					
55㉔④	(物ひとこと)きこえをかん	きこえをかん			1			1					
62㉔②	いとわか(いわけな)けれと	いとわかけれと		1				1					
6	末摘花	1㉔②	をくれし(程)の	をくれし		1			1			紅本の書き入れ薄墨	
		10㉔①	中将は思けり	中将(ハ)思けり		1				1	1		
		12㉔⑤	わつらひ給ふ(ひ)	わつらひ給ふ		1				1		紅本の書き入れ薄墨	
		14㉔①	あみま(さい)けて	あみま(さい)けて	1				1			紅本の「イ」のみ朱筆	

		167㉔	御心(ふるまひ)などは	御心などは		1				1					
		177㉔	(なにノ)はへあるましき	(写真なし)										熊本の振り落としか	
		327㉔	ふるきのかはならぬき(ぬ)のあやわたなど	ふるきのかはならぬきぬのあやわたなど		1				1		1			
7	紅葉賀	117㉔	(。御)あそひに	あそひに			1			1					
		137㉔	(すこし)うちすくし	うちすくし		1				1					
		157㉔	おもほす(ハ)	おもほす(ハイ)	1	1			1					熊本「ハ」一部虫孔。紅本は尻付きの落としか	
		207㉔	さりぬへきひまに(もイ)や	さりぬへきひまにや	1					1					
		287㉔	なま(ま)はゆけれど	なまはゆけれど		1				1					
		387㉔	ものし給(ハ)まし	ものし給まし		1				1					
				177㉔	さくら(のみえ)かさねにて	さくらかさねにて		1				1			
8	花宴	97㉔	すこし(ハ)	すこし		1				1					
		117㉔	う月はかり(に)と	う月はかりと		1				1					
		117㉔	との、(か)やうにて	との、やうにて		1				1					
				67㉔	(御車)日たけゆきて	日たけゆきて				1		1			紅本「御車」注記か
				117㉔	御(心)をきてに	御をきてに		1				1			
9	葵	147㉔	くさ葉はかりを(。ときこゆ)	草はかりを			1			1					
		147㉔	けふ(は)うちみたれて	けふうちみたれて		1				1					
		147㉔	人はた人(イ無)あひのり	人はた人あひのり	1					1					
		167㉔	心もふか(ル)らめ	心もふか(ら)め		1				1					
		207㉔	あしかれ(な)と	あしかれと		1				1					
		207㉔	ゆめには(イ無)かの	ゆめにはかの	1					1					
		217㉔	よ(。きイ)さまのことを	よさまのことを	1					1					
		247㉔	なかは(。つ)めくりても	なかはめくりても			1			1					
		277㉔	又(またイ)たいめんし	又たいめんし	1					1					
		297㉔	は(ゆイ)ら(。と)	はら(。と)	1					1					
		327㉔	念佛(。ノ)僧など	念佛僧など			1			1					
		347㉔	うちの(へイ)たまへる	うちの給へる	1					1					
		407㉔	風のあら(。か)に	風あら(。か)に			1			1		1			
		437㉔	すみつきにて(。いとあてにイ)	すみつきにて	1					1					
		447㉔	は(。めおやイ)なきこそ	は(。め)なきこそ	1					1					
		457㉔	心ちし侍(。ヲ)は	心ちし侍は			1			1					
		457㉔	いか(。は)いと心あさくも	いか(。は)心あさくも			1			1					
		467㉔	ほど(。を)をきつ(。と)	ほどをきつ(。と)			1			1		1			
		507㉔	めを(しイ)しほりつ(。と)	めをしほりつ(。と)	1					1					
		587㉔	みつかひとつか(イ無)にても	みつかひとつかにても	1					1					
		587㉔	あなかしこあな(イ無)たに	あなかしこあなたに	1					1					
		607㉔	おほえ(さい)さりしを	おほえさりしを	1					1					
		647㉔	おい(ふりイ)ぬる人の	おいぬる人の	1					1					
10	賢木	277㉔	九月七日(十六日)許	九月七日許				1		1				紅本の注記「十六日」朱筆	
		57㉔	こ(。らい)の人めも	こ(。ら)めも	1					1					
		87㉔	御かたち(すかたイ)	御かたち	1					1					
		97㉔	(。御)さうそくよりはしめ	さうそくよりはしめ			1			1					
		107㉔	宮の御(をイ)は	宮の御は	1					1					
		157㉔	みたまつらせ給(に)も	みたまつらせ給も		1				1					
		197㉔	うずらきて(。さふらひに)	うずらきて			1			1					
		197㉔	やかて(。ひとりイ)あまになり	やかてあまになり	1					1					
		237㉔	人しれぬ御心(さい)しか	人しれぬ御心しか	1					1					
		267㉔	御いのりをさへ(ウス雲也)	御いのりをさへ				1		1					紅本の注記「ウス雲也」は朱筆
		307㉔	宮はなかは(ハ)なきやうなる	宮はなかはなきやうなる		1				1					
		317㉔	いつこをおもてに(てイ)かは	いつこをおもてにかは	1					1					
		367㉔	はかなげ(な)れと	はかなげれと		1				1					
		367㉔	いとわるき(御)心なるや	いとわるき心なるや		1				1					
		387㉔	かけまくは(もイ)	かけまくは	1					1					
		397㉔	御めんほくあ(なイ)りと	御めんほくありと	1					1					
		467㉔	大将(ハ)頭弁の	大将頭弁の		1				1					
		497㉔	つぎの日(ハ)	つぎの日		1				1					
		507㉔	おほかたのこと(。の)さまも	おほかたのこのことさまも			1			1		1			紅本の補入記号、朱点
		527㉔	たれ(もイ) (。と)	たれ(。と)	1					1					

		53㉞⑩ (。廿四)年もかはりぬれば	年もかはりぬれば				1		1			紅本の注記「。廿四」、朱筆	
		59㉞⑩ 左右 (に) こまとりに	左右こまとりに		1				1				
		61㉞① 四の君 (紅梅) はらの	四の君はらの				1		1			紅本の注記「紅梅」、朱筆	
		62㉞② 兵部御宮 (帥歌) も	兵部御宮 (帥歌) も				1	1				紅本「兵部卿」に朱の傍点、熊本にも傍点あり	
11	花散里	1㉞⑩ おもひいて給には (もい)	思ひいて給には	1					1				
		2㉞⑥ よくなる (さうのい) ことを (にい)	よくなることを	2					2				
		2㉞⑦ あつまに (ヲい)	あつまに	1						1			
		2㉞④ やとりなりとみ (思ひ出い) 給 (にい)	やとりなりとみ給	2						2			
		3㉞③ にしのつまに (。とい) (。をし明てい)	にしのつまに	2						2			
		3㉞④ 人々みたり (ルヘシい)	人々みたり	1						1			
		3㉞③ ことばりに (ヲい) も	ことばりにも	1						1			
		3㉞④ あれ (おほせい) は	あれは	1						1			
		3㉞④ さすか (に過かてなるへしい) なり	さすかなり	1					1				
12	須磨	11㉞⑥ 御めかれず (しい) と	御めかれずと	1					1				
		17㉞② のほらせたまふ (。てさるへき物ともしなへくはらせ給い)	のほらせ給ふ	1					1				
		21㉞④ 神にまかり申 (しい) たまふ	神にまかり申たまふ	1						1			
		29㉞④ しほやくあまや (ノい)	しほやくあまや	1						1			
		31㉞⑩ あはれにこひ (へ) しょうも	あはれに恋しょうも		1					1		紅本の傍書は汚れか	
		43㉞① 風につき (けい) て	風につきて	1						1			
		43㉞⑧ 御やと (りい) を	御やと (りい) を	1						1			
		43㉞⑩ ま (う) てきむ	まてきむ		1					1			
		52㉞⑨ てう (と) とも	てうとも		1				1				
13	明石	5㉞② ほの (。ほ) もえあかりて	ほのほもえあかりて				1		1		1	紅本の補入記号、朱筆	
		13㉞① はまのたちに (ハ)	はまのたちに		1				1				
		13㉞⑤ ぬみさかえて	ぬみさかへ (。て)				1			1	1	但し「え」「へ」仮名遣いの異同は残る	
		13㉞⑧ いとなみつか (。う) まつる	いとなみつかまつる				1			1			
		19㉞⑤ はまかせ (。を) ひきありく	はまかせをひきありく				1			1	1	紅本の補入記号、朱筆	
		22㉞② をしやり給に (イ無)	をしやり給に	1						1			
		26㉞⑦ うらなれ給 (たい) つらん	うらなれ給つらん	1						1			
		27㉞④ かたくなし (。き) 入道の	かたくなしき入道の				1			1	1	紅本の補入記号、朱筆	
		28㉞③ いと (も) かしこきは	いとかしこきは		1					1			
		32㉞④ うちと (つ) け事に	うちとけ事に	1						1			
		34㉞② あるへきを (かない)	あるへきを	1						1			
		34㉞③ あたらよと (。はかりい) きこえたり	あたらよのときこえたり	1						1			
		41㉞⑨ むまれたまへる二になり給へは	むまれたまへる二になり給へは				1			1	1	紅本の見せ消し、朱筆	
		41㉞⑦ 御ものゝけ (。に) なやみ	御ものゝけなやみ				1			1			
49㉞⑦ 心のやみは (に)	心のやみは		1					1					
14	澤標	4㉞⑩ くらみを (もい) かへし	くらみを (もい) かへし	1					1				
		8㉞① 身つからは (もい)	身つからは	1					1				
		19㉞⑥ 花ちるさと (なと) を	花ちるさとを	1						1			
		20㉞⑩ すてかたき世 (なる) かな	すてかたき世かな		1					1			
		21㉞① うき身 (な) からは	うき身からは		1					1			
		21㉞④ 御ことの葉にか	御こと (の) 葉にか		1					1	1		
		23㉞⑥ (世) 人もやすからず	人もやすからず		1					1			
		23㉞⑧ おほ (ちおと) い どの	おほいどの	1						1			
		26㉞⑧ (御堂八人) 十人さまことに	(御堂八人) 十人さまことに				1	1					注記「御堂八人」、共に天辺余白に記す
		32㉞⑦ (女もい) よろつに	よろつに	1						1			
15	蓬生											紅本、蓬生巻欠本	
16	関屋	4㉞⑩ むかしに (ハイ) すこし	むかしに (ハイ) すこし	1					1				
17	絵合	3㉞④ なまめきゝよけ (らい) にて	なまめきゝよけにて	1					1				
		5㉞⑤ 人しれすをと (ハ)	人しれすをとハ		1				1	1	紅本の「ハ」は行末に押し入れた形。熊本「ハ」は行頭		
		16㉞⑥ かう (神) へしきに	かうへしきに				1			1	紅本の振り漢字「神」朱筆		
		20㉞⑥ かたへ (。物)	かたへの				1			1			
		22㉞⑥ ー (ルビ「付」) のさえて	ー (ルビ「付」) のさえて				1	1				但し本行「え」「え」仮名遣いに異同あり	
		22㉞⑧ よの人 (も) しか	よの人しか		1				1				

		23才⑨	この糸 (の) さためを	この糸さためを		1			1				
18	松風	8才②	いとも／＼ (無)	いとも／＼	1				1				
		11才①	むかしの (無) 人も	むかしの (無) 人も	1			1					
		20才⑩	思給へたえ (。たり) つる	思給へたえたりつる			1		1		1	紅本の補入記号、朱筆	
		27才③	われはわさ (れ) と	われはわれと			1		1		1		
19	薄雲	15才①	こはい (い) はかりは	こはいはかりは			1		1				
		34才③	みき丁はかり (。を) へたてゝ	みき丁はかりをへたてゝ			1		1		1	紅本の補入記号、朱筆	
		38才⑦	やはら (つゝ) ひきいり	やはらひきいり			1		1				
20	朝顔	4才②	いまに (か) 思ふさまに	いまに思ふさまに	1				1				
		5才⑩	神のゆ (し) るしを	神のゆるしを	1				1				
		11才④	(。女) 五の宮に	五の宮に			1		1				
		12才⑤	かは (。れ) るへき	かはるへき			1		1			紅本の補入記号、朱筆	
		26才⑦	心もとりかさね (へし) つへし	心もとりかさねつへし	1				1				
		27才⑧	など (そ) かくはと	などかくはと	1				1				
21	少女	3才⑧	あし (。から) ましと	あしからましと			1		1		1	紅本の補入記号、朱筆	
		4才③	(やかて) 四位に	四位に	1				1				
		6才①	いとゝを (物) うい) くなん	いとゝをくなん	1				1				
		6才⑥	おほして (えて) へ	おほして	1				1				
		10才③	夜 (世) のふみとも	夜のふみとも			1		1				
		13才⑨	すか／＼しう (し) はて給へれば	すか／＼しうはて給へれば			1		1				
		15才③	それにま (か) (よ) せて	それにま (か) (よ) せて	2				2				
		20才②	おいごたち (。そ涙おとしつゝ) へ	おいごたち	1				1				
		20才⑧	みな (宮) さま／＼	みなさま／＼	1				1				
		20才⑥	きこえ給 (も) やうあらん	きこえ給やうあらん			1		1				
		21才③	もてなし給ひつ	もてなし給ひつ			1		1				
		24才③	世に侍らんかきり (ハ)	世に侍らんかきり			1		1				
		25才①	しらせ給て (。こと) さらに	しらせ給てさらに			1		1				
		25才②	ゆかしけあることをさ (ま) せて	ゆかしけあることをさせて	1				1				
		25才⑨	くちおしきこと (。と) は	くちおしき事とは			1		1			1	
		26才⑦	よからぬ (世) 人の	よからぬ人の	1				1				
		26才④	こゝろしれる人 (とち) は	心しれる人は	1				1				
		29才⑤	君よりほかに (ま) さるへき人	君よりほかにさるへき人	1				1				
		30才③	おもへはなん (。と) きこえ	思へはなんときこえ			1		1			1	紅本の補入記号、朱筆
		31才⑧	こ侍従 (に) も	こ侍従も			1		1				
		33才⑧	をのつから (け) ちかきも	をのつからちかきも			1		1				
		34才⑩	左 (近) 少将	左少将	1				1				
		35才⑦	大宮の御 (。心) さしも	大宮の御 (。心) さしも			1		1				
		39才⑨	あけくれに (の) へ	あけくれに	1				1				
		43才③	ちかうよ (り) て	ちかうよて			1		1				
		47才⑤	(。まれ／＼まいり御ふては) おはせし	おはせし			1		1				
		49才②	なみたくみ (て) ぬ給へり	なみたくみてぬ給へり	1				1			1	
		49才③	心くるしう (て)	心くるしうて	1				1			1	
		50才④	(。よろつ) 思ひいれぬ	思ひいれぬ			1		1				
		50才⑥	かぎりなき (。御) かけには	かぎりなきかけには			1		1				
		54才⑦	なかしま (の) わたりに	なかしまわたりに	1				1				
		55才②	はるの (くるゝ) けちめも	はるのけちめも			1		1				
		57才①	御い糸 (ぬ) にてと	御い糸にてと			1		1				
		22	玉鬘	2才⑧	あやしきみち (無) に	あやしきみち (無) に	1			1			
4才⑩	はなのわかれに (。などそ)			はなのわかれに			1		1				
6才②	御ことはたち (れ) の人にも			御ことはたちの人にも	1				1				
7才②	あたらものをといふ (。を)			あたらものをといふ			1		1				
11才⑤	さいわいありと (は思) み給ふるを			さいわいありとみ給ふるを	1				1				
12才③	おもはねと (ほえず) へ			おもはねと	1				1				
13才⑧	このけん (こと) へ			このけん	1				1				
16才⑨	そこ (の) ところと			そこところと	1				1				
17才④	おもひつゝへ			思ひつゝ			1		1			1	紅本の見せ消し、朱筆
20才⑥	あるしのほうし (。きて)			あるしのほうし			1		1				
20才⑨	めざましく (。み) きくほとに			めざましくきくほとに			1		1				
24才②	大くわんをた (て) つれと			大くわんをたつれと			1		1				
28才①	ついて (。に) のとかに			ついでのとかに			1		1				

		30㉗	み。(え)たまふ	み給ふ			1			1			
		32㉘	まいりたまひし(日イ)に	まいり給ひしに	1					1			
		36㉙	うちとけすき。(ハ)	うちとけすき			1			1			
		39㉚	あまたもち(てイ)さはかめるか	あまたもちさはかめるか	1					1			
		40㉛	うこん(そこイ)はかりを	うこんはかりを	1					1			
		45㉜	女(嬢イ)になるまで	女になるまで	1					1			
		45㉝	中將を(もイ)きこえつけたるに	中將をきこえつけたるに	1					1			
		53㉞	(玉)にしのたいに	にしのたいに				1		1			紅本の注記「玉」、朱筆
23	初音	3㉗	御あそ(ハ)ひともなり	御あはひともなり		1				1	1		紅本「そ」に見せ消ちを付け忘れか
		10㉘	かすならぬしも(つかイ)へとも	かすならぬしもへとも	1					1			
		13㉙	たい。(と)このあさりの君の	たいこのあさりの君の			1			1			
		13㉚	御あつかひし侍り(る)とて	御あつかひし侍りとて		1				1			
		20㉛	(竹川)わたくしの	わたくしの				1		1			紅本の注記「竹川」、朱筆
24	胡蝶	4㉗	そうてうふきて(無イ)	さうてうふきて	1					1			
		7㉘	中宮の(。き)みと経	中宮のみと経			1			1			
		10㉙	したに心くるしう(。なん女はおしける)	したに心くるしう			1			1			
		17㉚	など(。に)もさはやかに	などにもさはやかに			1			1	1		紅本の補入記号、朱筆
		22㉛	をもてかくし(あひおもひイ)給へ	をもてかくし給へ	1					1			
		27㉜	御ゆるしをみてこそかたよりに(イナシ)	御ゆるしをみてこそかたよりに	1					1			紅本、傍線部の本文に傍点を打つ
25	蛍	2㉗	いたくまめたち(たる)	いたくまめたち		1				1			
		5㉘	御こ糸(。こそ)	御こ糸			1			1			
		13㉙	いまめかしくあらそひ(イナシ)	いまめかしくあらそひ	1					1			
		15㉚	人つてに(の)みきゝたまひけるに	人つてにみきゝ給ひけるに		1				1			
		18㉛	そそろ(そらい)ことを	そ、ろことを	1					1			
		19㉜	かた／＼につけた(てイ)る	かた／＼につけたる	1					1			
		21㉝	こ(くイ)まの、物かたり	こまの、物かたり	1					1			
		23㉞	このひめきみ(の)	このひめきみ		1				1			
		25㉟	思ひをきし(。事)	思ひをきし			1			1			
26	常夏	10㉗	ことつひ(いとイ)きひう	ことつひきひう	1					1			
		14㉘	御かた(なかい)らひなりける	御かたらひなりける	1					1			
		19㉙	いま(姫)きみを	いま君を		1				1			
27	篝火												該当する書き入れ不見
28	野分	2㉗	うしろめたく(も)	うしろめたく			1			1			
		6㉘	かせのさ(はい)きに	かせのさきに	1					1			
		8㉙	かせのふきま(か)(よイ)ふほど	かせのふきまふほど	1	1				2			紅本、加筆後の本文は「かせのふきまかよふほど」か
		8㉚	ふき(りイ)いる	ふきいる	1					1			
		10㉛	心あり(。さ)まことに	心ありまことに			1			1			
		11㉜	いとたへかたき(。に)	いとたへかたき			1			1			
		18㉝	けをとりにたれ(り)とみるに	けをとりにたれとみるに			1			1			
		21㉞	すゝりとゝ(イ無)こひ給へは	すゝりとゝこひ給へは	1					1			
29	行幸	5㉗	けふ(ハ)	けふ		1				1			
		8㉘	三条にそ(。ひ)さふらひ	三条にそさふらひ			1			1			
		8㉙	心のうら(ひま)なく	心のうらなく		1				1			
		16㉚	思ひい(ら)れぬを	思ひいれぬを		1				1			
		20㉛	かすにも思ひ(をよひ)侍らて	かすにも思ひ侍らて		1				1			
		27㉜	あはせのはかまー(ルビ「ヒト」)く	あはせのはかまー(ルビ「ヒト」)く				1	1				両本とも「一具」の「一」に読み仮名
		28㉝	心はへこそあ(さい)らても	心はへこそあらても	1					1			
		28㉞	にくさ(ま)に	にくさに		1				1			
		32㉟	いかてさやう(か)に	いかてさやうに		1				1			異文は「いかてさやかに」
30	藤袴	10㉗	いとをか(イ無)しくて	いとをかしくて	1					1			異文は「いとをしくて」
		9㉘	おもひま(な)し	思ひまし			1			1			
		10㉙	うらみわたり給(。一わたり)	うらみわたり給			1			1			
		10㉚	みさため給(。はぬ)ほど	みさため給ほど			1			1			
		14㉛	われもむかへ(い)ひつくりて	われもむかへひつくりて			1			1			
		17㉜	みしぢぬ(のひかたき)入の	みしらぬ入の			1			1			
		17㉝	御ありさまなる(り)やと	御ありさまなるやと		1				1			
		21㉞	もていて(なしイ)給ふらんに	もていて給ふらんに	1					1			

31	真木柱	22才③	あまた(ハ)さふらはん	あまたさふらはん		1			1			
		23才①	(。あ)まへにたに	まへにたに			1		1			
		23才⑦	(。みな)御めをしのこひつゝ	御めをしのこひつゝ			1		1			
		23才⑧	殿(の)いとかなしう	殿いとかなしう		1			1			
		27才⑨	かのみや(。の)のし給	かのみやのし給	1				1			
		30才⑧	春のうへも(ハ)	春のうへも		1			1			
		30才⑦	しか悪(。こ)におふへき	しか思ふへき			1		1			
		31才③	なめく(き)心ある	なめく心ある	1				1			
		31才⑩	中将(も)ねんころに	中将ねんころに		1			1			
		32才⑧	宮(春宮)はまたわかく	宮はまたわかく				1	1		紅本「春宮」は朱筆	
		36才⑤	むつかしきよの(。す)くせ	むつかしきよのくせ			1		1			
		38才④	(大将は)やかて	やかて	1				1			
		38才⑦	などかは(。さ)はあらむ	などかはあらむ			1		1			
		39才③	よそには	よそには			1		1			
		39才④	かの宮(玉)にも	かの宮にも				1			注記「玉」は朱筆	
		41才⑩	をとに(。く)けなる	をとにけなる			1		1			
		44才⑥	大将との(は)い	大将とのゝ	1				1			
		32	梅枝	1才⑥	御覽しあ(は)い てつゝ	御覽しあてつゝ	1			1		
				3才⑦	はなをめて(。つ)ゝ	はなをめてつゝ			1		1	1
6才③	おなし(。ほ)うこそは			おなしうこそは			1		1			
6才⑨	おとゝの御(。は)すくれて			おとゝの御すくれて			1		1			
11才⑧	左のおとゝ(。左)大将なども			左のおとゝ大将なども			1		1			
13才③	さしも(心カハリ)あらさりけり			さしもあらさりけり				1	1		注記「心カハリ」朱筆	
16才①	さう(。に)かきたまへる			さうかきたまへる			1		1			
16才⑤	女手のうるはし(。う)心とゝめて			女手のうるはしう心とゝめて			1		1		1 紅本の補入「う」朱筆	
16才⑨	いろあは(無)ひ			いろあはひ	1				1			
16才⑩	みたれたるさう(ま)いの			みたれたるさうの	1				1			
33	藤裏葉	3才⑤	あまけあ(な)りと	あまけありと			1	1				
		6才⑩	たはれて(カ)特	たはれて		1		1		紅本「カ特」朱筆。熊本は(7才~8才)で撮り落し。以後丁数がズれる。		
		10才⑦	いとゝい(は)いつかしうそ	いとゝいつかしうそ	1				1			
		11才⑨	あさきなを(内大臣)	あさきなを				1	1		紅本「内大臣」朱筆	
		12才②	しのひたりつるさ(ま)いの	しのひたりつるさまの	1				1			
		13才⑤	すく(。さ)れたるなん	すくされたるなん			1		1		1 紅本の補入記号、朱筆	
		16才⑤	おとゝ(ト)	おとゝは			1		1			
		21才⑦	(春)宮もわかき御こゝちに	宮もわかき御心地に				1	1		紅本「春」朱筆	
		22才①	つゆ(も)なくあやしく	つゆなくあやしく		1			1			
34	若葉上									紅梅本、若葉上欠本		
35	若葉下	4才⑩	きこしめしをきて(。あ)んのこと	きこしめしをきて			1	1		或いは注記?		
		5才⑧	うたてもすゝむ(。る)かな	うたてもすゝむかな	1			1				
		6才⑤	ときめく(き)さまかな	ときめくかな			1		1			
		14才③	うしろめたさにより(。て)こそ	うしろめたさによりこそ			1		1			
		14才④	御いのりにま(。う)て	御いのりにまて			1		1			
		21才⑥	とりかへ(ハ)しつゝ	とりかへしつゝ		1			1			
		37才⑧	さましたりノ次/御ことのふくろたゝみて ひきかくしたるに/ほとちいさくお はしませは中/さしやり給ふ程/も なくてうつくしう見えたまふ	さましたり		1			1		紅本はすべて付箋の文章。この本文は青表紙本系には不見。河内本や別本に散見。	
		43才②	ふれにくき物(に)は	ふれにくき物は		1			1			
		47才⑤	この(。こ)君たちの	この君たちの			1		1			
		47才⑧	ものゝしほ(を)こそ	ものゝしほこそ		1			1			
		51才⑩	まさりけり(む)いかし	まさりけりかし	1				1			
		58才②	おほさ(。れ)ねは	おほされねは			1		1		1	
		64才⑥	よはいとさためなき(口)ものを	よはいとさためなきものを		1			1		紅本、あるいは墨の汚れか	
		64才⑦	たくひ(。なく)やは	たくひやは			1		1			
		84才⑥	日(ひ)なにくれと	日なにくれと		1			1		紅本、「くやうせさせ給ひ」と解釈	
86才⑦	あをやかにて	あをやかに(。て)			1		1	1				
94才③	かたきわさなりけり(。と)	かたきわさなりけり			1		1					
114才⑤	ひやうしとゝのへんこと(又)	ひやうしとゝのへんことの			1		1					
12才②	おほかたのけ(き)しきも	おほかたのけしきも	1				1					

36	柏木	24材⑧	左(右イ)大弁の君にそ	さ大弁の君にそ	1					1				
		29材②	心に(のイ)侍しを	心に侍しを	1						1			
		34材①	かく(。て)しども	かくしても			1				1			
		34材①	うつくしき(ちイ)こどもの	うつくしきこどもの	1						1			
		36材⑥	な(けイ)い給らんにも	ない給らんにも	1						1			
		41材⑧	日ころはすこ(くイ)し	日ころはすこし	1						1			
		42材⑤	見たまひすこ(くイ)すへき	み給ひすこすへき	1						1			
		43材⑩	なり侍めるを(イ無)	なり侍めるを	1						1			
		44材①	きこえ侍も(イいみしう無)	きこえ侍も	1						1			
		44材④	あさやかな(きたイ)る	あさやかなる	1						1			
		44材⑤	おほえ(くイ)	おほえ	1						1			
		47材①	をしほりつゝ(てイ)	をしほりつゝ	1						1			
		52材②	なまめきぞあてに	なまめきあてに			1				1		1	
37	横笛	3材①	春の(。野)やま	春のやま			1			1				
		25材③	夜(。る)かたらすとか	夜かたらすとか				1		1				
38	鈴虫	1材①	なつ(。の)ころ	なつころ			1			1				
		12材⑩	うる(麗)さかりし	うるさかりし				1		1			紅本の振漢字「麗」朱筆	
39	夕霧	3材⑨	めとまり給て(て)	めとまり給て				1		1			紅本の振漢字「亭」を「手」に変える。熊本は「天」。	
		5材⑤	思ひたまふるを(に)	思ひたまふるを			1			1				
		6材②	れいの(子イ)少将の君など	れいの少将の君など	1						1			紅本の異文表示「子イ」朱筆
		16材③	こ君の御事(。もすこし)	こ君の御事			1				1			
		17材⑩	しらぬ事七らぬ(イ)こと	しらぬ事しらぬこと	1						1			紅本のミセクチは異文箇所の表示
		19材④	かけて(。も)	かけて			1				1			
		20材⑩	たましひを(ヨヲステ)	たましひを				1			1			紅本の「ヨヲステ」朱筆
		28材⑤	き(き)くるしかるへう	きくるしかるへう		1					1			
		33材②	(。人の)思はるところを	思はるところを			1				1			
		33材⑤	とし(来)月に	とし月に				1			1			紅本の振漢字「来」朱筆
		38材⑤	身もつらく(。て)すへて	みもつらくてすへて			1				1		1	紅本の補入記号、朱筆
		43材⑦	御文とりいれたる(りイ)	御文とりいれたる	1						1			
		44材⑦	(。れ)いもあつしうのみ	れいもあつしうのみ			1				1		1	紅本の補入記号、朱筆
		56材⑤	おま(口)へには	おまへには				1			1			紅本の朱書、81材①と同じ
		56材⑦	御山すみも(朱雀)	御山すみも				1			1			紅本の傍注「朱雀」朱筆
		62材④	(。こイ)法師はらの	法師はらの	1						1			
		62材③	みとせよりあなたの(柏木)	みとせよりあなたの				1			1			紅本の傍注「柏木」朱筆
		64材②	かの(。日は)むかしの	かのむかしの			1				1			
		65材②	うしろみなき人(なんイ)	うしろみなき人	1						1			
		65材⑥	す桑(べイ)なきやうに	す桑なきやうに	1						1			紅本の「べ」濁点めいた書入れあり
		65材⑨	さしもやうのことゝ(ものとイ)	さしもやうのことゝ	1						1			
		65材④	この(此)うきたる	このうきたる				1			1			紅本の振漢字「此」朱筆
		66材⑦	おもは(ほ)せて	おもはせて			1				1			
		67材⑤	おほえ(くイ)侍れ	おほえ侍れ	1						1			
		70材⑥	人けおほえ(くイ)て	人けおほえて	1						1			
		80材⑧	(。ほかけに見いたしてイ)しのひかたく	しのひかたく	1						1			
		81材①	な(ニ)るゝ身を	なるゝ身を				1			1			紅本の数詞「二」(朱筆)は物語本文とは無関係か
		87材①	あをにひなとを(。きかへさせうす色めもあをくちはなとを)とかく	あをにひなとをとかく			1				1			
		89材⑧	かたみにみず(。つ)へきにや	かたみにみずへきにや			1				1			
		89材⑧	中ぞらなる心(比イ)かなと	中ぞらなる心かなと	1						1			
92材⑧	少将は人へ(に)	少将は人へ			1				1					
40	御法	1材⑩	い□(。の)ち	いのち			1			1		1	紅本、□字の上に重ね書き	
		7材⑤	たちましりすゝ(らイ)めと	たちましりもすゝめと	1					1				
		9材②	御心のうち(。に)	御心のうち			1				1			
		10材⑤	(。はしりイ)ありき給を	ありき給を	1						1			紅本、「はしり給を」の異文表示
		13材⑩	あらぬ(。萩の露もイ)よそへられたる	あらぬよそへられたる	1						1			
		15材⑥	いまは母かきりの	いまはかきりの			1				1		1	
		21材⑥	おもひしる(らすイ)へく	思ひしるへく	1						1			

		23㉞⑥	をきそふ。(おりからによろつのふる事おほしいてられてなにとなくその秋のことこひしうかきあつめこぼるゝなみたをばらひもあへたまはぬまきれに) 御かへし	をきそふ御かへし				1			1			紅本の補入部分、付箋に記す		
41	幻	2㉞④	ひき(二)きけつゝ	ひききけつゝ					1			1		紅本「二」朱筆。錯簡につき、熊本2㉞		
		2㉞⑤	つれ／＼なる(。まゝに)	つれ／＼なる				1				1		錯簡につき、熊本2㉞		
		8㉞①	つけては(もい)	つけては	1								1		錯簡につき、熊本6㉞	
		9㉞⑤	露けくのみみな(。さ)れ給	露けくのみみなされ給				1					1		紅本、補入記号朱筆。熊本、錯簡につき、28㉞	
		12㉞⑦	おほさるゝにつけては(もい)	おほさるゝにつけては	1								1		錯簡につき、熊本11㉞	
		14㉞③	(紫)ひとつすちのかなしさに	ひとつすちのかなしさに						1				1		紅本「紫」朱筆。錯簡につき、熊本13㉞
		20㉞⑨	(源)ひとりすみは	ひとりすみは						1				1		紅本「源」朱筆。錯簡につき、熊本19㉞
		23㉞①	あつきころ(六月)	あつきころ						1				1		紅本「六月」朱筆。錯簡につき、熊本22㉞
		26㉞④	とよのあかりに(とイ)	とよのあかりに	1									1		錯簡につき、熊本25㉞
27㉞⑥	しつへかりける(。を)	しつへかりける						1				1		錯簡につき、熊本26㉞		
42	匂宮	1㉞⑩	やむ事なきものに(。思イ)をきたてまつり給て	やむことなきものにをきたてまつり給て	1							1				
		3㉞⑤	御そふ(。ふん)ところにて	御そふところにて					1				1			
		5㉞⑥	春のはなのさかりは(引 残ナク)	春のはなのさかりは						1				1	紅本の「引 残ナク」朱筆	
		6㉞②	女の御け(きイ)しきよりも	女の御けしきよりも	1									1		
		14㉞②	けに(。い)と	けにと					1					1		
43	紅梅	3㉞⑩	さふらひたまふ(へイ)は	さふらひたまふは	1								1			
		3㉞⑤	にほひおほかる心ち(かたち)	にほひおほかる心地					1					1		
		7㉞⑤	思を(こ)されと	思をされと					1					1		
		11㉞⑩	ま(二)つうくひすの	まつうくひすの								1		1	紅本の「二」朱筆	
		16㉞④	むへわれ(。を)は	むへわれは						1				1		
		16㉞⑩	みや(東/君)の御かたは	みやの御かたは								1		1	紅本の「東/君」朱筆	
44	竹河	8㉞①	おもほしきたむへき事に(かイ)なん	おもほしきたむへき事に(かイ)なん	1							1				
		10㉞⑨	心もたなくつほみ(ほゝゑみイ)て	心もたなくつほみて	1								1			
		16㉞⑩	みたてまつら(んイ)は	みたてまつらは	1									1		
		18㉞⑦	おはしまさうし(しイ)時	おはしまさうし時	1									1		
		20㉞⑥	人のみゝも(にイ)	人のみゝも	1									1		
		20㉞⑥	春宮(。へ)は	春宮は					1					1		
		29㉞②	心をうつしけり(ル歎)とも	心をうつしけりとも					1					1		
		33㉞⑥	まつよりまさ(こゆ)るいろを	まつよりまさるいろを					1					1		
		39㉞③	月(に)はえ	月にはえ					1					1		
		42㉞③	おもほす(。に)	おもほすに								1		1	紅本の補入記号、朱筆	
		42㉞⑤	(。中の姫きみを)おほやけさまにて	おほやけさまにて								1		1		
		43㉞②	その事かなひ(。給)ぬ	その事かなひぬ								1		1		
		52㉞⑨	もてしつめ(。め)やすきを	もてしつめゝやすきを								1		1		
		45	橋姫	5㉞②	(猶)よ人に	よ人に					1				1	
8㉞⑥	まいり(と)さふらひきこえ			まいりさふらひきこえ					1				1			
10㉞⑤	おもひ(。いて)きこえ			おもひきこえ								1		1		
15㉞①	(。ふイ)かく心にかけてなむ			かく心にかけてなん	1									1		
16㉞③	佛の御へた(かたイ)てに			佛の御へたてに	1									1		
21㉞⑩	かくて女(君)たち			かくて女たち								1		1		
23㉞⑥	あはれには(な)つかしう			あはれになつかしう								1		1		
25㉞③	つたふる人も			つたふる人も								1		1	紅本「人」に見せ消ち	
28㉞②	しろしめさせん(。と)			しろしめさせんと								1		1	紅本の補入記号、朱筆	
29㉞⑦	よのまの程(。も)			よのまのほど								1		1		
40㉞①	思ひいてらるへかりけると(。て)			思ひいてらるへかりけると								1		1		
47㉞③	昨日はいとま(。の)日なりしを			昨日はいとま日なりしを								1		1		
		6㉞⑧	心つく(。す)人もあるへし	心つく人もあるへし								1	1			
		8㉞③	ひめ宮(君イ)は	ひめ宮は	1								1			
		9㉞⑤	ひとゝころ／＼(たにイ)よに	ひとゝころ／＼よに	1								1			
		9㉞⑥	さるへきにや(□□)	さるへきにや									1	1	紅本の注記、朱筆。薄くて不読	

46	椎本	9㉞⑦	その秋 (二十三)	その秋				1		1		紅本の注記、朱筆。薄くて不読
		13㉞②	かたくなし。(き) ひかこと	かたくなしきひかこと			1			1	1	紅本の補入記号、朱筆
		16㉞③	思ま(と)り給へ	思より給へ			1			1		
		19㉞①	八月廿。(よイ) 日の程	八月廿(よイ) 日のほど	1				1			紅本の補入記号、朱筆
		21㉞③	又あひみる(むイ) 事	又あひみる事	1					1		
		21㉞⑥	昨日今日と。(は)	昨日今日と			1			1		
		22㉞⑨	なくさめきこえ。(かね) つゝ	なくさめきこえつゝ			1			1		
		29㉞⑥	やつるゝ袖(露イ)を	やつるゝ袖(露イ)を	1				1			
		30㉞⑥	かりそめの世の(イ無) 思	かりそめの世の思	1					1		
		32㉞⑤	秋やは(八九) かはれる	秋やはかはれる				1		1		紅本の「八九」、朱筆
		35㉞⑧	みえみす(ミ) えすみ	みえみえすみ		1				1		1
		37㉞⑦	思たまふれは(と)	思給ふれは(とイ)	1				1			紅本は「イ」の書き落とししか
		40㉞③	えん埜にもゝてなさて	えんけにもゝてなさて			1			1		
		41㉞⑧	身にて。(一とごころの御かけにかくれて)	身にて			1			1		
		42㉞⑨	こほりとけ(に) たるを。(につけてもかくまてなからへけるも) ありかたくもと	こほりとけたるをありかたくもと		1	1				2	
		43㉞⑩	つて(ヨソ)にみし	つてにみし		1				1		紅本の「ヨソ」朱筆
44㉞⑥	御心になふ	御心になふ			1			1		紅本、「御」に見せ消ち		
46㉞⑤	おひ(カケ帯)はかなげに	おひはかなげに				1		1		紅本の「カケ帯」朱筆		
48㉞①	いろ(尋)なりとか	いろなりとか				1		1		紅本の「尋」朱筆、熊大虫損		
48㉞⑧	た(オ)ちたりつる	たちたりつる				1		1		紅本の「オ」朱筆、弟の略か		
47	総角										紅本後補につき未調査	
48	早蕨	8㉞⑨	はかせ(しイ)なたたまつれ	はかせなたたまつれ	1				1			
		12㉞⑩	なにことに(も) きこえさせ	なにことにきこえさせ			1		1		紅本の見せ消ちは朱筆	
		15㉞①	あるましき事にてさへ。(侍めれとさしもあるましうてイ)	あるましき事にてさへ	1				1			
		16㉞③	あれはてしとん思。(を)	あれはてしとん思			1		1			
49	宿木	2㉞①	女御夏ころ(椎朝ス、ミ)ものゝけに	女御夏ころものゝけに			1		1		紅本の「椎朝ス、ミ」朱筆。細流抄と関係あるか	
		5㉞⑨	中納言源(の)あそん	中納言源あそん		1			1			
		6㉞⑦	さま／＼にいとを(心くる)しき人々の	さま／＼にいとをしき人／＼の			1			1		
		6㉞⑨	ひしりよ(コレヨリ四字イナシ)のものゝ世に	ひしりよのものゝ世に	1				1		紅本、本行「よ」に朱の句点を打つ。云わんとした異文は「ひしりの世に」か	
		7㉞③	あまりおほけなかりける	あまりおほけなかりける			1		1	1	紅本の見せ消ち、朱筆	
		8㉞⑥	ひとこと(かた)にさたまり	ひとことにさたまり			1			1		
		8㉞③	きこえさせ給を(にイ)	きこえさせ給を	1				1			
		9㉞①	おほしおこして。ほのめかしまいらせ(いさるへきたよりしてけしきはみきこえ)。給	おほしおこしてほのめかしまいらせ給	1				1		紅本「ほのめかしまいらせ」の前後に補入記号を入れて、当該部分の異文を揭示	
		10㉞④	(早蕨)やむことなきかたさまに	やむことなきかたさまに			1		1		紅本の「早蕨」朱筆	
		13㉞⑤	夜(る)とまる事は	夜とまる事は			1		1			
		13㉞⑨	思ま(や)るにつけても	思よるにつけても			1			1		
		20㉞①	思給へし。(を)	思給へし			1			1	熊本20㉞⑩	
		21㉞⑦	木草の色。(よのなかれ)につけても	木草の色につけても			1			1		
		22㉞①	所／＼。(に)あかれちりつゝ	所／＼あかれちりつゝ			1			1		
		22㉞⑥	さて中／＼(猶)みな	さて中／＼みな			1			1		
		26㉞②	いかならん。(と)	いかならん			1			1		
		27㉞⑨	つれなくさま(てすく)し給事なれば	つれなくさまし給事なれば			1			1		
		28㉞⑩	みな(かき)みたり	みなみたり			1			1		
		29㉞②	わすれにけるにやあらん。(詠いりておはするを見わつらひて) おい人とも	わすれにけるにやあらんおい人とも			2			2		紅本、補入文中の「見」に朱筆で見せ消ちが入る
		40㉞③	めしつきとねり(厩)などの	めしつきとねりなどの			1			1		紅本の「厩」朱筆
44㉞①	のち(は)二條院に	のち二條院に		1				1				
45㉞③	しのひ。(て)わたりなむ	しのひてわたりなん			1			1	1			
46㉞⑧	御かへり。(に)は	御かへりは			1			1				
47㉞⑩	としころの。(心の)しるしも	としころのしるしも			1			1				
48㉞②	うすらき待(心ちし)ける	うすらき待にける			1			1				
50㉞③	(心とりに)きこえ給へは	きこえ給へは			1			1				
50㉞④	(九月)ついたちの程にも	ついたちの程にも				1		1		紅本の「九月」朱筆		

50㉙⑧	うらみ給へは(と)	うらみ給へは		1		1		
51㉙②	けしきなる(を)すこしは	けしきなるすこしは		1		1		
52㉙④	かひなき(無実)物から	かひなき物から			1	1		紅本の「無実」朱筆
56㉙⑥	かぎりなくのたまひ(ふ)	かぎりなくの給ひ		1		1		
58㉙⑤	をき所なきおもひ(口より)	をき所なきおもひ			1	1		紅本の「口より」朱筆
63㉙⑨	ずかたともなとに(かへたれと)	ずかたともなとに		1		1		
65㉙⑥	こみこ(やい)の御山すみを	こみこの御山すみを	1			1		
65㉙⑩	(地)いとをしの人	いとをしの人			1	1		紅本の「地」朱筆
68㉙⑦	(二中君)けにそしたやすからぬ	けにそしたやすからぬ			1	1		紅本の「二中君」朱筆
77㉙①	つゝましくてなんと(。て)	つゝましくてなんと		1		1		
77㉙③	おなし心なる人もなき(。に)	おなし心なる人もなき		1		1		
80㉙⑤	あはれ(。に)いかにして	あはれにいかにして		1		1	1	紅本の補入記号、朱筆
82㉙③	いかてすこ(くイ)してんと	いかてすこしてんと	1			1		
82㉙③	女(。み)こをなんうみて	女こをなんうみて		1		1		
88㉙①	(句)あきはつる野への	あきはつるのへの			1	1		紅本の「句」朱筆
92㉙⑧	かぎりある御とふらひ(廿五)	かぎりある御とふらひ			1	1		紅本の「廿五」朱筆
93㉙④	右大いと(紅梅)左(源)にて	右大いとの左にて			2	2		紅本の「紅梅」「源」朱筆
96㉙⑦	(。その)夜の事は	夜の事は		1		1		
100㉙③	あさ(るイ)ましき御事	あさましき御事	1			1		
102㉙①	みせ(イナシ)給へるも	みせ給へるも	1			1		
102㉙④	よをたにふかすましきを(も)	よをたにふかすましきを		1		1		
102㉙⑧	藤中納言(ヒケ)	藤中納言			1	1		紅本の「ヒケ」朱筆
103㉙⑦	入道の宮(女三)	入道の宮			1	1		紅本の「女三」朱筆
104㉙⑦	おとゝしきりては(天盃)	おとゝしきりては			1	1		紅本の「天盃」朱筆
106㉙④	けふをもあ(わイ)かぬ	けふをもあかぬ	1			1		
106㉙④	いろとこそみれ(又たれとかイ)	いろとこそみれ	1			1		
107㉙⑨	あしろふたつ(。女はう三十人)	あしろふたつ		1		1		
108㉙①	くるまとも十二(。りやうイ)	くるまとも十二	1			1		
108㉙⑥	すこ(くイ)して	すこして	1			1		
114㉙⑥	たつねね(み)まほしけに	たつねねまほしけに	1			1		
116㉙③	ほうらいまたたつね(。て)	ほうらいまたたつねて		1		1	1	紅本の補入記号、朱筆
4㉙⑦	かゝるあたりを(。は)	かゝるあたりを		1		1		
5㉙⑨	ゆふくれなと(。に)	ゆふくれなと		1		1		
6㉙③	わすれぬへかめる(。に)	わすれぬへかめる		1		1		
7㉙⑩	(。あまたのこともの中にすくれて)おもたゝしう	おもたゝしう		1		1		
7㉙⑧	いさかよはん(。事)	いさかよはん		1		1		
7㉙⑨	いまやうの事にて(。は)	いまやうの事にて		1		1		
8㉙②	おなしこと(と)	おなしこと	1			1		
8㉙⑤	かみ(。に)も	かみも		1		1		
12㉙①	返々(。かしこまりながら)おほせのこと	返々おほせのこと		1		1		
12㉙⑨	しむしちの(。親の)	しむしちの		1		1		
13㉙⑧	をのつから(。やんことなき)人の	をのつから人の		1		1		
13㉙①	こたひのとう(。に)は	こたひのとうは		1		1		
14㉙③	かとのと(を)は	かとのとには		1		1		
14㉙③	むこ(。に)とりたてまつらんと	むことりたてまつらんと		1		1		
14㉙④	(。申さるゝ)所へ	所へ		1		1		
14㉙③	たとひ(。命)あへすして	たとひあへすして		1		1		
15㉙③	大臣にならむそ(清)くらうを	大臣にならむそくらうを			1	1		紅本の「清」朱筆。「贖勞」の「そ」は清音の意味
17㉙⑦	(。みこの)御むすめをは	御むすめをは		1		1		
18㉙⑦	(。世中の)心うさを	心うさを		1		1		
19㉙⑧	式部卿の宮(蜻蛉)	式部卿の宮			1	1		紅本の「蜻蛉」朱筆
21㉙⑧	(。かみ)人の御心は	人の御心は		1		1		「人の御心は」以下、常陸守の発言
22㉙①	思つれさ(。は)れは	思つれされは		1		1		
22㉙①	われも(。と)むこに	われもとむこに		1		1	1	紅本の補入記号、朱筆
22㉙④	おとこ君もこの(。とくの)ほどの	おとこ君もこのほどの		1		1		
28㉙③	人へ(は)おなし	人へおなし	1			1		紅本の「は」本文中に押し入れた形
28㉙⑥	ひとよあらましかたり(ことに)	ひとよあらましかたり		1		1		

50 東屋

28材⑨	(。又) ゆかしうおほえて	ゆかしうおほえて			1			1		
29材④	人はかけて(。も) いはず	人はかけていはず			1			1		
32材①	たへ(。こもら) ぬわさ	たへぬわさ			1			1		
34材②	むかひておはせしさま(。宮はいとなきけなけに見にくくこそみえ給しかとりはなちてはいづれもともかくもわかれすかたちよき人は人をつけこそにくけれとの給へは人へわらひてされとおまへにはをされたてまつらざめり) いかはかりならん	むかひておはせしさまいかはかりならん			1			1		紅本の補入部分は付箋に記す。補入部分の本文、肖柏本に似る
34材④	けちたてまつらん(。あさましや) なといふほどに	けちたてまつらんなどいふほどに			1			1		
37材④	(。さかしらなれと) いとをししくそ	いとをししくそ			1			1		
37材⑦	なてもの(。は) いて	なてものいて			1			1		
37材⑥	はしたなけなるましうはこそ(は)	はしたなけなるましうはこそ			1			1		
41材⑨	(。まきれ) いつるかしと	いつるかしと			1			1		
42材②	御なやみ(に) もあらて	御なやみもあらて			1			1		
43材⑧	いまゝいり(のあい) たるかなと	いまゝいりたるかなと	1					1		
44材③	いとおかし(。いたき物かなと見給て)	いとをかし			1			1		
46材②	(。人やりならぬ) やみに	やみに			1			1		
54材⑤	(。さすかに) いさゝかにても	いさゝかにても			1			1		
55材⑥	御心さし(。のやう) に	御心さしに			1			1		
55材④	右近にことはよませて(。みしかく火ともしてけうそくのうへにひろけて) みに	右近にことはよませてみに			1			1		
60材③	(。いかて) つゝかなくて	つゝかなくて			1			1		
61材⑤	おほく(。は) 思おとして	おほく思おとして			1			1		
68材⑥	れいならずしひて(。の給て)	れいならずしひて			1			1		
69材③	(。物) みせさせ給へかし	みせさせ給へかし			1			1		
70材⑦	(。あま君も) あはれに	あはれに			1			1		
71材⑦	さにやあらんと思へと(て)	さにやあらんと思へと			1			1		
72材⑨	おひ風いと(。所せし)	おひ風いと			1			1		
73材⑨	こひしきこと(。そひにしかは)	こひしきこと			1			1		
76材⑧	(。さすかに) いかゝ思らんと	いかゝ思らんと			1			1		
77材③	(。あぶきを) さしかくして	さしかくして			1			1		
78材⑤	御ありさま(。は) いますこし	御有さまいますこし			1			1		
79材⑥	たゝいま(。は) ものへしけに	たゝいまものへしけに			1			1		
59材②	たいふのおせ(もとい) にとて	たいふのおとにとて	1					1		
74材⑦	御覽せさせ給へとてなん(。と)	御覽せさせ給へとてなんと			1			1	1	紅本の補入記号、朱筆
79材④	つかうまつる(。人) とは	つかうまつるとは			1			1		
10材⑤	きゝし(。との給へは)	きゝし			1			1		
23材⑥	おそろしやあやにくに	おそろしあやにくに			1			1	1	紅本の見せ消し、朱筆
24材⑧	いひなすなりけり(。けふめのときのたらんときかさまにせんとおもふなんわひしかりけり)	いひなすなりけり			1			1		
28材④	あやしき御心の(。かまへは) けに	あやしき御心のけに			1			1		
40材③	ことしもこそあれ(。と)	ことしもこそあれ			1			1		
42材⑤	ぬれ給へる(。御その)	ぬれ給へる			1			1		
44材④	たちはなのこしまの(かい) さきに	たちはなのこしまのさきに	1					1		
44材⑧	人のさま(。に)	人のさま			1			1		
53材①	さま(。さま)	さまへ			1			1	1	紅本の補入記号、朱筆
53材④	(新拾) 里の名を	里の名を			1			1		紅本の「新拾」朱筆
53材①	世をふる身を(とい) もなさはや	世をふる身をもなさはや	1					1		
58材⑨	み(。えい) たてまつり	みたてまつり	1					1		
58材⑧	きこえをき侍にし(。も)	きこえをき侍にし			1			1		
61材②	かく(い) しひそめて	かくしひそめて	1					1		
77材⑨	いとあ(。や) しくなりぬへき	いとあしくなりぬへき			1			1		
85材⑤	日をかきねては	日をかねては			1			1	1	紅本の見せ消し、朱筆
17材⑨	ちかゝなれと(はい)	ちかゝなれと	1					1		
4材⑨	おほつかなくてや(は) あらん	おほつかなくてやあらん		1				1		
8材⑤	ことそき(うき) たるやうなり	ことそきたるやうなり	1					1		
18材⑧	おほすも(。心はつかし)	おほすも			1			1		

52	蜻蛉	24材⑩	御事(心ち)のさまも	御事のさまも			1			1			紅本「事」に見せ消ち
		33材⑥	たえ待らず	たえ待らず			1			1			
		37材①	あ(かい)れはては	あれはては	1					1			
		48材⑧	つりとのかたより(にイ)	つりとのかたより(にイ)	1				1			1	
		49材⑤	よういあらむやは(はやイ)と	よういあらむやはと	1					1			
		63材⑨	あひおもはせ(イナシ)て	あひおもはせて	1					1			
		70材②	はらわたゆ(ふイ)るは	はらわたゆるは	1					1			
53	手習	7材①	人におはれ(或被)	人におはれ			1			1			紅本の「或被」朱筆。細流抄ではこのあと普門品を引く
		8材⑧	ひんかしのやりと(とりイ)になん	ひんかしのやりとになん	1					1			
		11材⑥	みれと(露はかり)こゝはと	みれとこゝはと			1			1			
		16材③	なにかそれ(も)えんに	なにかそれえんに			1			1			
		18材⑥	つまとを(やをら)はなちて	つまとをはなちて			1			1			
		19材⑨	宮ときこえし人のし給と(おはせし程イ)	宮ときこえし人のし給と	1					1			
		35材⑤	さらに(は)きゝ給はねは	さらにきゝ給はねは		1				1			
		52材⑧	いつかはみん(。と)すると	いつかはみんすると			1			1			
		57材⑧	あしかりしほどになり(イ無)にたる	あしかりしほどになりにたる	1					1			
		67材⑦	こと(。の)さまの	ことさまの			1			1			
		68材①	おほすへかめる(。事なり)	おほすへかめる			1			1			
		69材④	はしのも(かた)に	はしのかたに			1			1			
		70材⑨	し給もなを(。はちらひて)	し給もなを			1			1			
74材⑤	ゆき(廿七)ふかく	ゆきふかく				1		1		紅本の「廿七」朱筆			
54	夢浮橋	3材①	このとし(月イ)ころ	このとしころ	1					1			
		5材⑨	すけ(出家)せしめたてまつりてし	すけ(出家)せしめたてまつりてし				1	1			1	紅本の「出家」朱筆
		6材⑩	ゆめ(一)の心ちして	ゆめの心地して				1		1		紅本の「一」朱筆	
		6材⑧	さきの世のちきりなり(。と)	さきの世のちきりなり			1			1			
		8材①	ゆめ(二)のやうなる	ゆめのやうなる				1		1		紅本の「二」朱筆	
		15材⑩	すこ(けイ)し給へる事	すこしてたまへる事	1					1			
		18材⑨	(。あかきみ)かまへて	かまへて			1			1			
		20材②	ゆめ(四)かたりをたに	ゆめかたりをたに				1		1		紅本の「四」朱筆	
		21材③	ゆめ(五)にかと	ゆめにかと				1		1		紅本の「五」朱筆	
		23材⑦	やまかせふく(ふかくイ)とも	やまかせふく(ふかくイ)とも	1				1			1	
					203	119	246	69	27	603	5	63	

あとがきに代えて

―紅梅文庫旧蔵本の影印紹介について―

上野 英子

多くの方々のご尽力・ご協力によって、ようやく報告書をまとめることが出来た。私ひとりの力では、とてもここまでの成果は望めなかったと思う。紙面を借りて改めて、関係者各位に心より御礼を申し上げます次第である。

室町時代における源氏物語写本は、取混ぜ本を寄合書きで作られたものが多い。そのことの何が問題なのかと言えば、寄合書きは担当者によって書写態度が異なる可能性があることである。一個人が全巻書写したものならばその懸念は消去されるだろうが、底本自体が既に取混ぜ本だった可能性は残っている。結局のところ、一帖や二帖の本文分析では写本全体の位相は論じきれないのである。

また成立当初の姿をそのまま温存している写本などは稀で、多くの写本には時期や時代を異にした書き入れの歴史がある。重層化されたクロニクルを、果たしてどこまで正確に読み取れるのか、という問題もある。紅梅文庫旧蔵本と同様である。

科研費の目標を遂行するに当たって先ず研究会を立ち上げたのは、方法論を異にする方々に、それぞれのお立場から同本の具体相を掘り起こしていただき、それによって同本の位相を検証していくことになった。

その過程で熊本大学附属図書館蔵（教育学部旧蔵）本という、同じく伏見宮家本の写しとみられる兄弟本を再発見できたのは大きな収穫であった。両本を比較することによってそれぞれ独自に加えられた書き入れと、おそらくは底本自体から存在したであろう書き入れとの峻別が容易になったからである。

こうしてそれぞれの視点から照射された結果、紅梅文庫旧蔵本はバラツキを含みながらも、スポットライトの重なった部分が多かったことは、大きな収穫であった。

本報告書の刊行と同時に、インターネットにてサイトを立ち上げ、紅梅文庫旧蔵本の全画像を公開した。利便性を考慮し、『源氏物語大成』の頁数からも画像を検索できるようにした。本文研究の一助にしたいだければ幸いである。

タイトル：紅梅文庫旧蔵源氏物語

URL： <https://genji-koubai.jp/>



紅梅文庫旧蔵源氏物語

HOME 紅梅文庫旧蔵源氏物語画像 画像検索 報告書 当サイトについて

紅梅文庫旧蔵源氏物語

紅梅文庫旧蔵本は、伏見宮家蔵源氏物語（底本は三条西実隆が全冊自ら書写したという実隆最初の手沢本）を書写したもので、本サイトではその全てのカラーデジタル画像と報告書を御覧頂くことができます。三条西家の人々は、藤原定家の〈六半本〉を青表紙原本と受けとめていた可能性があります。三条西家証本の最も初期の姿を伝える資料として公開いたしますので、広く皆様のお役に立ていただければ幸いです。なお本サイトは文科省科学研究費若手研究「新出資料紅梅文庫旧蔵本を中心とした三条西家源氏物語本文の再構築に関する研究」によって作成しました。

科学研究費助成事業・若手研究・（令和元年度～令和四年度）報告書
「新出資料紅梅文庫旧蔵本を中心とした三条西家源氏物語本文の再構築に関する研究」
課題番号 19K13063 研究代表者 上野英子

室町時代源氏物語本文史の研究 — 紅梅文庫旧蔵本を中心に —

2022年8月20日発行（非売品）

編集 上野英子
発行 実践女子大学文学部上野英子研究室
〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
印刷 (株)インフォテック
〒206-0033 東京都多摩市落合2-6-1